

## (9)

氏名(生年月日) 小暮美津子  
コ グレ ミ ツ コ

本 籍  
 学位の種類 医学博士  
 学位授与番号 甲第9号  
 学位授与の日付 昭和37年3月30日  
 学位授与の要件 医学研究科眼科学専攻, 博士課程修了者(学位規則第5条第1項該当)  
 学位論文題目 実験的葡萄膜炎の血清学的研究  
 論文審査委員 (主査)教授 加藤金吾, 教授 平野憲正, 教授 中山光重

## 論文内容の要旨

## 緒言

葡萄膜炎の原因としては, virus 感染説, 細菌病巣感染説, 結核説などがあるが, その本態はいまだに不明のものが多く, 原因の如何を問わず, 症状は一定で, 慢性遷延性に経過し, 段々に増悪するところから, 自己抗原によるアレルギー説もある。

わが国における葡萄膜炎患者の17~20%はベーチエツト氏症候群に属するといわれている。ベーチエツト氏症候群は再発性前房蓄膿性虹彩炎, アフタ性口内炎, 陰部潰瘍を三主要症状とするもので, その発病は突発的で急激な視力障害をきたし, 迅速に治癒し, 再発をくりかえすうちに, 種々の器質的障害をおこすもので, 単なる化膿性炎症によるものでなく, 抗原抗体反応の関与が考えられる。

著者は実験的に家兎にくりかえし, 葡萄膜炎をおこさせ, 血清及び前房葡萄膜, 網膜の抗体価の変動を観察し, 更に第2報では, コーチゾン,  $\gamma$ -グロブリンのこれらに及ぼす影響を観察し, 臨床症状も同時に検索した。

抗原としては, 溶血性連鎖球菌液を使用した, これを用いた報告例はなく, 葡萄膜, 網膜について, 組織培養液中で抗体価の測定を行ったものも我国にはなく, 系統的に眼内炎症時における抗体の追求を, 炎症状態と比較しつつ行ったという報告もまだ見られない。

## 実験方法

家兎を4群に分ち, 第1群は抗原の網膜下注射を1回のみ行い, 第2群はくり返し3回網膜下注射を行い局所に過敏性炎症をおこさせたものである。

第3群, 第4群はあらかじめ, 下腹部に皮下注射を3回行い, 十分に血清中に抗体価の上つている時期に, 第

3群は網膜下注射(以下眼注)を1回のみ, 第4群は3回くりかえし感作を行ったものである。

以上4群の家兎の血清, 前房, 葡萄膜, 網膜について, 時間的に凝集反応及び沈降反応を行い, 抗体価の推移を観察した。同時に臨床症状も観察し, 第2報では, コーチゾン及び $\gamma$ -グロブリンを添加し, その抗原抗体反応に対する影響を観察した。

## 結論

1) 眼局所, 即ち前房, 葡萄膜, 網膜に抗体産生能力がある。

2) 眼注を行った場合抗体はまず眼局所に現われ, 引き続き血清中に現われたが, 血清中での抗体価は低かつた。

3) 眼局所の抗体価は余り差はないが, 前房, 葡萄膜, 網膜の順に高かつた。

4) 眼炎症症状の極期に, 局所において抗体は0で, 炎症症状の消退と入れかわつて, 抗体価の上昇を見た。

5) 炎症症状が強い程, 長期間にわたつて, 抗体が0で, 消炎後の抗体価の上昇も強く, 抗体にいつ迄も残存した。

6) 沈降反応及び凝集反応では, はつきりした差が見られなかつた。

7) 抗原抗体反応の過程において,  $\gamma$ -グロブリンの添加は対照にくらべて, 抗体産生を賦活する。

8) コーチゾンは炎症の初期, 臨床的には浸出性変化のある時期に抗体産生を抑制し, 炎症の消退期に, 抗体産生を促進させる方向に働く。

9) 葡萄膜, 網膜に対するコーチゾン,  $\gamma$ -グロブリンの作用に差はない。

10) 感作家兎に眼注を行ったものと、無感作家兎に眼注を行ったものとの原抗体反応が血清学的に修飾されて、趣きを異にして注をくり返し行った、いわゆる Arthus 現象とでは、異なる。

### 論文審査の結果の要旨

1. 主論文に就いて：本研究は葡萄膜炎に於ける眼球内抗体の消長と臨床像の推移とを比較検討し、更に眼球内抗体の消長に及ぼす薬物の影響をも併せ観察して、葡萄膜炎に於いて抗体の果す役割を明らかにせんとしたものである。本研究成績を要約すれば、
  - (1) 葡萄膜及び網膜に局所抗体産生能力がある。
  - (2) 抗体の消長と炎症経過との間に関連が認められる。即ち、炎症極期には抗体を認めず、炎症の消褪と共に抗体が増加する。又、炎症が強い程、その後の抗体価上昇が強く、抗体の消長も永い。此の炎症の強さと炎症発生方法との間に関連が認められる。
  - (3)  $\gamma$ -グロブリンの添加は抗体産生を賦活し、コーチゾン添加は炎症初期に於いては抗体産生を抑制し、炎症消褪期に於いてはこれを促進させる傾向がある。

以上の研究業績は、原因不明の占める率が多く従つて治療困難な葡萄膜炎の機構解明に重要な役割を果し、その治療にも有力な示唆を与えるもので、臨床上貢献する所少なからざるものと認める。

2. 副論文に就いて：副論文3編は何れも臨床医学上有意義なものと認める。

#### 主論文公表誌

実験的葡萄膜炎の血清学的研究，日本眼科学会雑誌  
第66巻 第3号 207頁～218頁（昭37）。

#### 参考論文公表誌

1. P-607による屈折性遠視ならびに調節麻痺，眼科  
臨床医報 54, 40（昭35）。

2. 葡萄膜炎における自己抗原性の研究，第1報臨床  
的研究，日本眼科学会雑誌 65（7）1060（昭36）。
3. Behçet 氏病その他疾患における家兎赤血球凝集  
反応，その診断的意義，臨床眼科 16（3）305  
（昭37）。